



SPARC Enterprise™ M3000サーバ プロダクトノート

XCP 1082 版

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス



実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限りです。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

目次

はじめに	vii
SPARC Enterprise M3000 サーバのサポートについて	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
マニュアルへのアクセス	viii
ご意見をお寄せください	viii
XCP 1082 に関する一般的な情報	1
XCP 1082の新着情報	1
エアフローインディケータ	1
排気量の表示例	2
コンピュータールームの省電力化について	2
サポートされるファームウェアおよびソフトウェア	4
Solarisパッチに関する情報	5
Emulex PCI Express (PCIe)カードのパッチ	5
XCP 1082へのアップデート	5
XSCFファームウェアのリセット	5
機能の問題と制限	6
電力モニタ機能およびエアフローインディケータに関する留意点	6
一般的な機能の問題と制限	6

ハードウェアに関する情報	8
200V電源を使用する場合の注意事項	8
DVDドライブ／ディスクの使用について	8
USBメモリの使用について	9
電源再投入時の注意	9
ハードウェアマニュアルの変更予定	9
『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』の変更予定	11
UPSコントローラー（UPC）の分岐接続	12
接続できる場合	13
接続できない場合	14
ソフトウェアに関する情報	15
電力モニタ機能	15
消費電力の表示例	16
XCPに関する問題と回避方法	16
XCP 1082で発生しうる問題	17
XCP 1082で解決された問題	19
XCP 1082以前で解決された問題	20
Solaris OSに関する問題と回避方法	22
すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題	22
Solaris 10 5/09で解決された問題	25
Solaris 10 10/08で解決された問題	27
ソフトウェアマニュアルの変更予定	28
システム内の縮退メモリの識別	31

はじめに

本書では、SPARC Enterprise™ M3000 サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

SPARC Enterprise M3000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M3000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M3000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム (OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<https://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M3000 サーバのインストール、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M3000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M3000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris OS関連のマニュアル

<http://www.sun.com/documentation>

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記URLの『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterpriseマニュアルのサイト:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

XCP 1082 に関する一般的な情報

ここでは、XCP 1082に関する一般的な情報について説明します。

- [「XCP 1082の新着情報」](#)
- [「サポートされるファームウェアおよびソフトウェア」](#)
- [「XCP 1082へのアップデート」](#)
- [「機能の問題と制限」](#)

XCP 1082の新着情報

本リリースでの新しい特徴は以下のとおりです。

- SPARC Enterprise M3000サーバに対して、エアフローインディケーターがサポートされるようになりました。

エアフローインディケーター

XCP 1082から、SPARC Enterprise M3000サーバに対して、エアフローインディケーターが追加されました。エアフローインディケーターとは、SPARC Enterprise M3000サーバの排気量を表示する機能です。

エアフローインディケーターによって、稼働中のSPARC Enterprise M3000サーバで排気される風量を日常的に確認できるようになります。計測された排気量の情報は、環境温度情報とともに、サーバを設置するコンピュータールームやオフィスなどの、空調システムの状態を把握したり、再設計したりする場合の判断に用いることができます。

さらに、エアフローインディケーターと電力モニタ機能を利用して空調システムなどのファシリティをコントロールすることにより、コンピュータールーム全体の消費エネルギーの効率化を図ることができます。

排気量を表示する場合は、`showenvironment air`コマンドを使用します。また、SNMPエージェント機能を使用して排気量の情報を取得することもできます。

注 – 電力モニタ機能はXCP 1081 から追加されました。詳細については、15ページの「電力モニタ機能」を参照してください。

SNMPエージェント機能を使用して排気量の情報を取得する場合は、SNMPマネージャに、最新のXSCF拡張MIB定義ファイルをインストールしてください。XSCF拡張MIB定義ファイルについては、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFユーザーズガイド』を参照してください。

なお、`showenvironment(8)`コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。SPARC Enterprise M3000サーバの設置については、『SPARC Enterprise M3000サーバ 設置計画マニュアル』を参照してください。

排気量の表示例

排気量を表示する場合は、新しく追加された`air`オペランドを使用して`showenvironment(8)`コマンドを実行します。

```
XSCF> showenvironment air
Air Flow:63CMH
```

コンピュータールームの省電力化について

世界的なグリーンITへの関心が高まる中、さらなるCO2削減に向けてコンピュータールーム全体をマネジメントして省電力化を図ることが企業には求められています。

省電力化を推進するにあたり、SPARC Enterprise M3000サーバには次のような特長があります。

- 従来サーバから消費電力を50%削減 (当社比)
- 消費電力/排気量をリアルタイムにモニタすることができる電力モニタ機能とエアフローインディケータを提供

電力モニタ機能とエアフローインディケータを利用すると、サーバの状態に応じて空調システムをマネジメントすることができます。サーバ自身の省電力化とあわせて、コンピュータールーム全体でより高い省電力化を可能にします。

一般に最もエネルギー効率のよいコンピュータールームとは、コンピュータールーム全体の消費電力とサーバなどすべてのIT機器の消費電力が一致する(PUE値が1)(注)ことであるとされています。

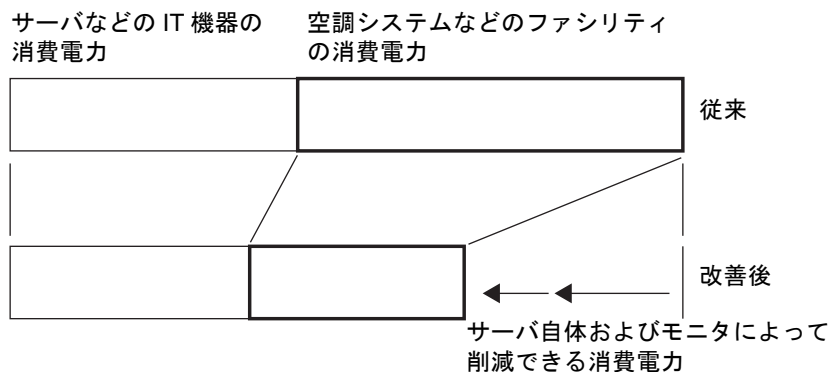
注 – Power Usage Effectiveness (PUE)値：

コンピュータールームのエネルギー効率を表す指標。以下のように定義されます。

$$\text{PUE} = \text{コンピュータールーム全体の消費電力} / \text{サーバなどIT機器の消費電力}$$

PUE値を1に近づけるためには、図 1のようにIT機器の消費電力を削減するだけでなく、空調システムなどコンピュータールーム全体のファシリティの消費電力を削減する必要があります。

図 1 コンピュータールーム全体の省電力化



電力モニタ機能とエアフローインディケータを利用して、空調システムの空調能力をコントロールすることで、PUE値を最適に近づけることができます。

以下はサーバと空調システムを連携させ、コンピュータールームを省電力化する例です。

例) サーバラック単位やサーバゾーン単位に専用の冷却装置を設置している場合

1. 現在のPUE値を確認します。
2. サーバラックやサーバゾーン内のIT機器の消費電力と排気量を定期的にモニタします。
3. モニタしたデータを元に、消費電力が高いエリアでは、そのエリアの空調能力を高く、低いエリアでは、空調能力を低く設定します。
4. IT機器の消費電力に応じて空調能力を適切にコントロールすることで、空調システム全体の消費電力が下がり、その結果、PUE値が小さくなります。

このような方法でPUE値の数値をできるだけ1に近い状態で維持すると、サーバが増加した場合でもエネルギー効率のよいコンピュータールームに向けた改善を進められます。

サポートされるファームウェアおよびソフトウェア

本リリースでは、以下のファームウェアおよびオペレーティングシステムがサポートされています。

表 1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

ファームウェアおよびオペレーティングシステム	バージョン
XSCF Control Package (XCP)	1082
Solaris™ Operating System	Solaris 10 10/08以降、または 10 5/08、および必須パッチ

注 – XCP 1080は、SPARC Enterprise M3000 サーバでサポートされるXCPの、最初のバージョンです。

注 – 8GB DIMMは、XCP 1081以降でサポートされます。

XCPは、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/download/firmware/>

XSCF Webは、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Webの動作することが確認されているウェブブラウザは、表 2のとおりです。

表 2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Microsoft® Internet Explorer	6.0および7.0
Netscape Navigator™*	7.x
Firefox (Solaris 10)	2.0

* Netscapeブラウザは公式なサポートが終了しています。XSCF Webでは、Internet ExplorerまたはFirefoxを使用することをお勧めいたします。

Solarisパッチに関する情報

SPARC Enterprise M3000 サーバでSolaris 10 5/08を使用している場合は、以下のパッチが必要です。パッチは以下に記載されている順番に適用してください。

- 119254-59
- 138866-01
- 137137-09

なお、Solaris 10 10/08以降を使用している場合は、必要なパッチはありません。

その他のSolaris OSの情報については、22ページの「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」を参照してください。

注 – viiページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

Emulex PCI Express (PCIe)カードのパッチ

以下のEmulexカードは、パッチ120222-26で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA

XCP 1082へのアップデート

XCP 1082へのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

XSCFファームウェアのリセット

ファームウェアをXCP 1082にアップデートしたあとは、`rebootxscf(8)`コマンドを使用して、必ずXSCFをリセットしてください。

機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

電力モニタ機能およびエアフローインディケータに関する留意点

- 以下のような場合、MIB情報やshowenvironment power/showenvironment airコマンドおよびXSCF Webで、消費電力および排気量の値が正しく表示されないことがあります。1分後に、再度、値を確認してください。
 - 本体装置の電源投入／切断中、あるいは投入／切断完了後しばらくの間
 - 電源ユニットの活性交換中、あるいは活性交換完了後しばらくの間
- 電力モニタ機能およびエアフローインディケータで表示される数値は、それぞれ、本体装置の消費電力および排気量を示します。周辺装置に対する数値は含まれません。

一般的な機能の問題と制限

- ログアーカイブ機能は、現時点ではサポートされていません。
- XSCFをドメインのNTPサーバとする場合は、XSCFが参照するDNSサーバおよびNTPサーバのICMPプロトコルをブロックしないように設定してください。
- 外部電源制御装置 (F7973RC1) の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号(電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- ドメインはXSCFをNTPサーバとすることを推奨します。この場合、以下の注意が必要です。
 - XSCFは、外部NTPサーバに接続しなければなりません。
 - XSCFのほか、1つまたは複数のNTPサーバをドメインに接続する場合は、XSCFに指定したNTPサーバと同じサーバに接続してください。

NTPの詳細については、当社技術員にお問い合わせください。NTP設定の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

- 以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。
root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、default

- XSCF WebではFirefox 3はサポートされていません。
- XSCF Webを使用する場合は、ブラウザのキャッシュ機能を無効にしてください。キャッシュを有効にしておくと、キャッシュされた古いデータがWebページに表示されてしまうことがあります。キャッシュを無効にする方法については、ご使用のブラウザによって、以下のように設定してください。
 - Internet Explorer 6および7:
 [ツール]-[インターネット オプション]-[詳細設定]タブにある「暗号化されたページをディスクに保存しない」をチェックします。
 - Netscape 7.1以降:
 [編集]-[設定]-[詳細]-[キャッシュ]-[キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較]の項目で「ページにアクセスするたび」を選択します。
 - Firefox 2:
 アドレス欄に「about:config」と入力し、フィルタ欄に「cache」と入力します。リストにある「browser.cache.check_doc_frequency」の設定値を「1」に変更します。
- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上にSession ID errorが表示されることがあります。また、Autologout設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、ファームウェアアップデートの際にInternal Server Errorが表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Webに接続しなおしてください。
- XSCF Webを使用する時、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合は、プラグインを削除する、またはポップアップブロック設定を無効にしてください。
- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、必ずオートネゴシエーションに設定してください。
- restoredefaults(8) コマンドは、現時点ではサポートされていません。
- snapshot(8) コマンドの -e、-P、-l オプションは現時点ではサポートされません。

ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「200V電源を使用する場合の注意事項」
- 「DVDドライブ／ディスクの使用について」
- 「USBメモリの使用について」
- 「電源再投入時の注意」
- 「ハードウェアマニュアルの変更予定」
- 「UPSコントローラー（UPC）の分岐接続」

200V電源を使用する場合の注意事項

B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

DVDドライブ／ディスクの使用について

本サーバに搭載されているDVDドライブを使用する際の注意事項があります。次のWebサイトから『SPARC EnterpriseでのDVDドライブ／ディスクの使用について』を参照してください。

URL:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

USBメモリの使用について

dumpconfig(8)、restoreconfig(8)、snapshot(8)コマンド実行時に、データの保存先としてUSBメモリを指定する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリをご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモリの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性および動作を保証しているわけではありません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCFファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。そのような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。

XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリを接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラーの要因となる場合があります。

電源再投入時の注意

電源ケーブルの引き抜き、または分電盤のブレーカーによって、本体装置の電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。

ハードウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のハードウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

表 3 では、マニュアルの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画マニュアル	第2章	「電力モニタ機能」および「エアフローインディケータ」に関する記事を追加します。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画 マニュアル	2-4	<p>「表2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、IEC 60320 C14と記載されていますが、正しくはBS1363です。</p> <p>以下の注意文を追加します。 注 - B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。</p>
SPARC Enterprise M3000 サーバ 製品概要	第1章	<p>「電力モニタ機能」および「エアフローインディケータ」に関する記事を追加します。</p>
SPARC Enterprise M3000 サーバ インスト レーションガイド	2-4	<p>「表2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、IEC 60320 C14と記載されていますが、正しくはBS1363です。</p> <p>以下の注意文を追加します。 注 - B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。</p>
	3-6	<p>「3.4.2 XSCFの初期設定」 設定項目の中にドメイン/ サービスプロセッサ間通信プロトコル(DSCP)が明記されます。</p>
SPARC Enterprise M3000 サーバ サービス マニュアル	2-5	<p>「表2.1 オペレーターパネルのスイッチ」 モードスイッチ (Serviceモード) の説明について、「Serviceモードでは、本体装置に対する遠隔電源制御や自動電源制御を無効にできるため、保守時に誤って電源が投入されることを防ぎます。」と記載されていますが、正しくは「Serviceモードにすると、本体装置に対するRCIによるリモート電源制御や自動電源制御を無効にできるため、保守時に、意図しないで電源が投入されてしまうことが防げます。ただし、電源の切断については、自動電源制御を無効にできません。」です。</p>
	2-6	<p>「表2.2 モードスイッチの機能」を変更します。11ページの「モードスイッチの機能」を参照してください。</p>
	4-9	<p>「4.5.1.1 XSCFコマンドを使用した電源切断」を変更します。11ページの「XSCFコマンドを使用した電源切断」を参照してください。</p>

『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』の情報よりも優先されます。

モードスイッチの機能

ここでは、2-6ページの「表2.2 モードスイッチの機能」を変更します。

表 2.2 モードスイッチの機能

機能 状態の定義	モードスイッチ	
	Locked	Service
Break 信号の受信抑止	有効。setdomainmode を使用してドメインごと にBreak 信号の受信/ 受 信抑止を指定可能。	無効
POWER スイッチによる電源投入/ 切断	電源投入のみ有効	有効
リモートの電源投入/ 切断	RCIによる電源投入/切断 有効（自動起動）	無効
	自動電源制御による電源 投入/切断 有効（自動起動）	電源切断のみ有効

XSCFコマンドを使用した電源切断

ここでは、4-9ページの「4.5.1.1 XSCFコマンドを使用した電源切断」を変更します。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをバックアップします。
3. platadmまたはfieldeng権限を持つユーザーがXSCFシェルにログインして、poweroff コマンドを入力します。

```
XSCF> poweroff -a
```

poweroff コマンドを使用すると、次のアクティビティが実行されます。

- Solaris OS が完全にシャットダウンします。

- 本体装置の電源を切断し、本体装置がスタンバイモードになります（XSCF ユニットは電源が投入されたままになります）。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

4. オペレーターパネルのPOWER LED が消灯していることを確認します。
5. AC電源からすべての電源コードを抜きます。



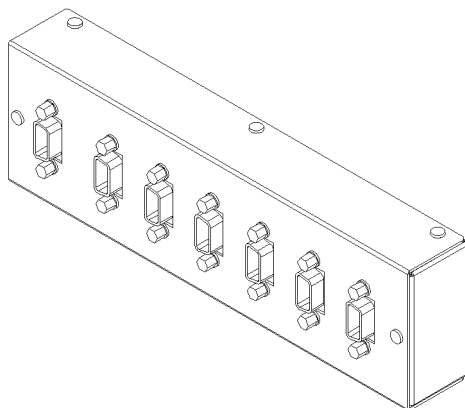
注意 – 電源コードを抜かないと電氣的故障が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

UPSコントローラー（UPC）の分岐接続

UPC 6分岐コネクタを使用すると、最大6台の無停電電源装置（UPS）を接続できます。

UPC 6分岐コネクタの外観図を [図 2](#) に示します。

図 2 UPC 6分岐コネクタ



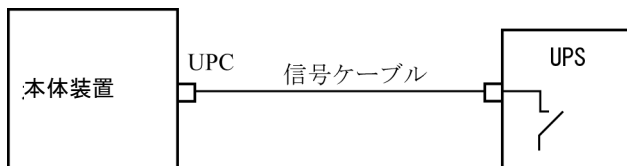
本体装置のUPCは、以下に説明している条件を満たせば、分岐コネクタを使用して複数台のUPSに接続できます。ここでは、本体装置のUPCの分岐接続の条件について説明します。

接続できる場合

UPSと本体装置が以下の接続形態の場合には、信号ケーブルを接続できます。

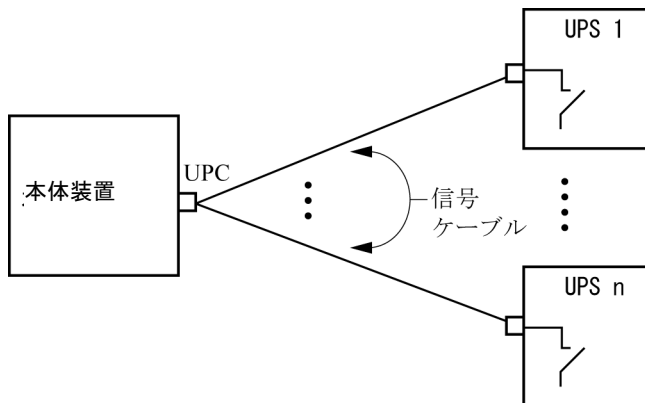
- 1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 3参照）
- 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合（図 4参照）

図 3 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



重要 - 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合、本体装置からの送出信号（ER信号）の条件によっては、信号ケーブルが接続できないことがあります。この接続形態で接続する場合には、当社技術員にご相談ください。

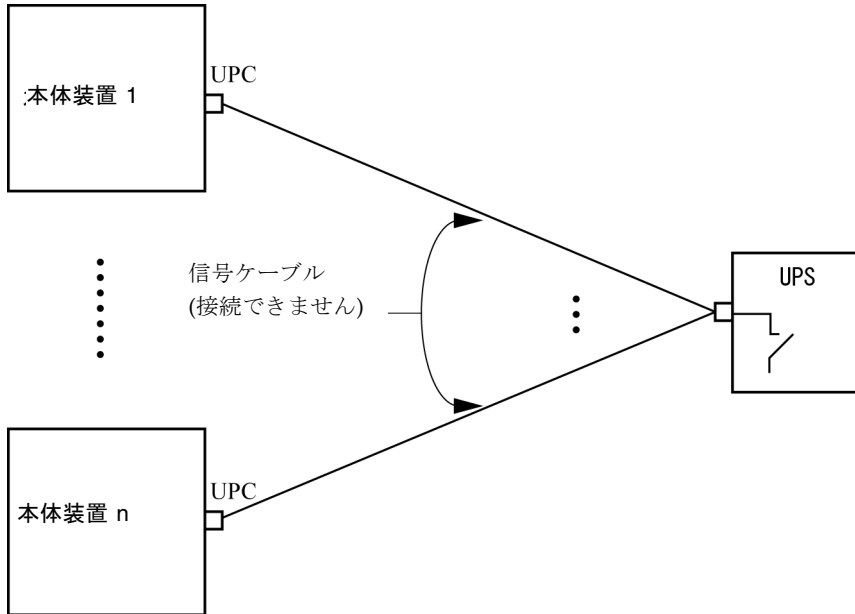
図 4 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合)



接続できない場合

複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 5参照）、UPSと本体装置との信号ケーブルの接続はできません。

図 5 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続ができない場合
(複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



ソフトウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- [「電力モニタ機能」](#)
- [「XCPに関する問題と回避方法」](#)
- [「Solaris OSに関する問題と回避方法」](#)
- [「ソフトウェアマニュアルの変更予定」](#)
- [「システム内の縮退メモリの識別」](#)

電力モニタ機能

XCP 1081から、SPARC Enterprise M3000サーバに対して、電力モニタ機能が追加されました。電力モニタ機能とは、SPARC Enterprise M3000サーバで実際に消費されている電力を表示する機能です。

電力モニタ機能によって、稼働中のSPARC Enterprise M3000サーバで、消費されている電力を日常的に計測することができるようになります。計測された消費電力の情報は、SPARC Enterprise M3000サーバを設置するコンピュータールームやオフィスなどの、電力設備の現状を把握したり、再設計したりする場合の判断に用いることができます。

消費電力を表示する場合は、`showenvironment power`コマンドを使用します。また、SNMPエージェント機能を使用して消費電力の情報を取得することもできます。

注 – SNMPエージェント機能を使用して消費電力の情報を取得する場合は、SNMPマネージャに、最新のXSCF拡張MIB定義ファイルをインストールしてください。XSCF拡張MIB定義ファイルについては、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFユーザーズガイド』を参照してください。

なお、`showenvironment(8)`コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。SPARC Enterprise M3000サーバの設置については、『SPARC Enterprise M3000サーバ 設置計画マニュアル』を参照してください。

注 – コンピュータールームやオフィスの電力設備を最適化する場合は、SPARC Enterprise M3000サーバの消費電力を、一定期間、計測する必要があります。コンピュータールームやオフィスの設置を計画する場合は、当社技術員にご相談ください。

消費電力の表示例

消費電力値を表示する場合は、新しく追加された`power`オペランドを使用して`showenvironment(8)`コマンドを実行します。

```
XSCF> showenvironment power
Permitted AC power consumption:470W
Actual AC power consumption:450W
```

結果には、最大消費電力値(Permitted AC power consumption)と実際の消費電力値(Actual AC power consumption)が表示されます。

XCPに関する問題と回避方法

この章では、XCPに関する問題について記載します。表 4、表 5、表 6はご使用のXCP版数によって発生しうる問題を示しています。

XCP 1082で発生しうる問題

表 4 に、XCP 1082で発生しうる問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 4 XCP 1082 で発生しうる問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-009	XSCF動作中、プロセスダウン、watchdogタイムアウトまたはハングアップが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-071102-002	snmpデーモンが終了する場合があります。	setsnmp enableコマンドを実行し、snmpデーモンを再起動してください。
RTIF1-080725-001	setsnmp adv3traphost を実行した場合、Trap ホストが動作していない、ユーザー名やパスワードの間違いなどの理由で、認証に失敗すると、以降の SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。 SNMP TRAP ホストが起動されていることを確認の上、正しいユーザー名で setsnmp(8) コマンドを再度実行してください。
RTIF1-080725-002	SNMPv3 トラップを設定している場合、XSCFで watchdog timeout が発生し XSCF がリセットされると、以降の SNMP Trap が通知されません。	XSCF をリセットしてください。
RTIF1-081006-005	XSCF Webのネットワーク設定では、setnetwork -rコマンドに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名にlocalhostやlocaldomainを指定すると"SessionID has expired"とエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで setnetwork -r コマンドを実行してください。
RTIF1-081006-011	SNMP トラップホストの設定を変更しても、setsnmp disable と setsnmp enable を実行するまで反映されません。	SNMP の設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable

表 4 XCP 1082 で発生しうる問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081016-002	FRUが (システムの電源切断を伴い) 停止交換されたとき、 (電源投入後) 監視プロセスが、発生した交換操作を示すような監視メッセージログのエントリを生成しない場合があります。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-081225-001	settimezone -c adddstコマンドで、タイムゾーンの略称とサマータイム名を8文字以上に設定すると、showlogsコマンド実行時にSegmentation faultが発生し、コマンドが異常終了します。	タイムゾーンの略称とサマータイム名は7文字以内で指定してください。
RTIF1-090108-002	二系統受電構成の場合、片方の電源系統で停電 / 復電が繰り返して発生すると、全ドメインの電源が強制的に切断されます。また、強制的に電源が切断されたあとの復電時に、PSU構成違反がエラーログに登録され、復電が開始されない場合があります。	電源ケーブルの抜き差しが必要です。
RTIF1-090108-003	XSCF Webで表示されるLast Updateの日時が更新されない場合があります。	ブラウザ画面を更新してください。
RTIF1-090122-001	PSUが復電する前に、"Power recovery" のメッセージが表示されます。	"Power recovery" のメッセージが表示されたあとに、ほかのPSUの電源を切断する場合は、60秒待ってください。
RTIF1-090427-001	XSCFとSolaris OSが通信を行うための装置内ネットワークインターフェース(ppp)が、正常な状態であるにもかかわらず、SNMP MIBで異常 (ダウン) 状態と通知されます。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-090427-002	XSCFのリセット後に、LDAPサーバを使用したXSCFへのログインができなくなります。	有効な回避方法はありません。 この現象が発生した場合は、XSCFへ初期アカウントでログインしてから、以下のコマンドを実行し、証明書チェーンを再インポートしてください。 setldap -c <remote file>
RTIF1-090427-004	LDAPサーバの設定において、XSCF WebとXSCFシェルの設定可能文字数が一致していません。XSCF Webでは128文字までしか入力できません。	129文字以上を設定する場合はXSCFシェルを使用してください。
RTIF1-090427-005	setpasswordpolicy(8)コマンドで Different Charactersに "999999999" (10桁) を設定したあと、showpasswordpolicy(8)コマンドで表示すると"-1"になってしまいます。	有効な回避方法はありません。 XSCF Webを使用してください。

表 4 XCP 1082 で発生しうる問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-090430-001	XSCFで https の設定(自己認証局)後にWebサーバ証明書を作成しても、httpsが有効になりません。	自己認証局を設定する場合は、空白文字を指定しないでください。
RTIF1-090508-001	10 Gigabit Ethernetカード(SE0X7HE1F)が搭載されたドメインで、OpenBoot PROM環境変数diag-switch?をtrueに設定していると、コンソールに以下のワーニングメッセージが出力されるとともに、エラーログに"Msg: Device error (FCode informed error)"が記録されます。 WARNING: /pci@7,700000: FCODE map-in doesn't match decoded register type; また、showstatus(8)コマンドを実行すると、該当するカードが搭載されたFRUに対して "Degraded"と表示される場合があります。	これらすべての出力は無視しても差し支えありません。 これらの出力を回避する場合は、okプロンプトで以下のコマンドを実行し、OpenBoot PROM環境変数diag-switch?をfalseに設定してください。 setenv diag-switch? false

XCP 1082で解決された問題

表 5 に、XCP 1082で解決された問題を示します。

表 5 XCP 1082 で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、マザーボードユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなります。	マザーボードユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-080725-004	XSCF シェルでサマータイムを設定すると、XSCF Web の Logs メニューで表示される時刻が、正しく表示されません。	有効な回避方法はありません。 XSCF シェルの showlogs(8) コマンドを使用してください。
RTIF1-081006-002	setemailreport(8) コマンドで、SMTP アドレスに 255 文字以上指定するとエラーになります。	SMTP アドレスに 255 文字以上指定しないでください。
RTIF1-081006-006	XSCF Webでパニックログを表示すると、メッセージの先頭部分から表示されないことがあります。	表示内容が不足している場合は、XSCF シェルで showlogs panic コマンドを実行してください。

表 5 XCP 1082 で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081016-001	UPS装置が停電を検知しても、SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-081030-002	設定されているタイムゾーンの略称が、3文字でない場合、XSCF Web の Error Log ページでエラーログが表示されません。 また、XSCF Web の Panic Log および IPL Message Log ページのテーブル上部にあるログ採取時刻が "---" と表示されます。	XSCFシェルでshowlogs(8)コマンドを使用してください。
RTIF1-081104-001	PCIスロットの異常が検出された場合、監視メッセージログが登録されない場合があります。	有効な回避方法はありません。 PCIスロットの故障情報は、showlogs errorコマンドまたはfmdumpコマンドで確認してください。
RTIF1-090115-001	settnetnet -c disableコマンドを実行すると、ただちにTelnetサービスは停止します。ただし、rebootxscf(8)コマンドでXSCFをリセットしないと、次回Telnetサービスを再開する際に、失敗する場合があります。	Telnetサービスを停止した後は、rebootxscf(8)コマンドを実行して、XSCFをリセットしてください。
RTIF1-090220-001	複数の本体装置とI/O装置がRCIで接続されたシステムの場合、1台の本体装置の電源を投入しても、I/O装置の電源が投入されないことがあります。	すべての本体装置の電源を投入してください。
RTIF1-090220-002	マザーボードユニットを交換すると、RCIの電源連動設定がデフォルト値にもどってしまいます。	電源連動設定をデフォルト値以外に設定している場合は、マザーボードユニットを交換したあとに、setpwrmode(1M)コマンドを使用して電源連動設定を再度行ってください。

XCP 1082以前で解決された問題

表 6 に、XCP 1082以前で解決された問題を示します。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-081006-001	"XSCF FMEM write error" のエラーログが記録され、ファームウェアアップデートが失敗する場合があります。	システムの電源をいったん切断 (AC OFF) してから、再投入 (AC ON) してください。その後、再度ファームウェアアップデートを実行してください。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081006-003	ドメイン動作中、XSCF ユニットの故障が原因で XSCF がリセットされたあと、ハードウェアの状態を表示すると、CPU とメモリのステータスが Deconfigure と表示されます。	マザーボードユニットだけ交換してください。このときメモリに故障がなければ、メモリを交換する必要はありません。
RTIF1-081006-004	ファームウェアアップデート中に以下のメッセージが出力され、XSCF がパニックすることがあります。 kernel BUG in jffs2_do_read_inode at fs/jffs2/readinode.c:XXX!	XSCF をリセットしたあと flashupdate(8) コマンドを使用して、再度、ファームウェアアップデートを行ってください。
RTIF1-081006-007	password(8) コマンドの [user] オペランドは、ドキュメントでは省略可となっているにもかかわらず、オプション設定時に指定しない場合はエラーとなります。	有効な回避方法はありません。オプションを設定した場合は、user オペランドを指定して password(8) コマンドを実行してください。
RTIF1-081016-003	Internet Explorer 6 または 7 で、XSCF Web の [Setting]-[Audit] メニューから [Add Policy] を選択したときに表示されるポップアップ画面上で、[Reset] ボタンをクリックしたあと [OK] ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出力され、ログアウトされる場合があります。 Error Session Error Session ID has been expired	XSCF Web に再ログインしてください。ポップアップ画面の [User] テキストボックス内のテキストを消去する場合は、[Reset] ボタンを使用せずに、BackSpace キーを使用してください。

Solaris OSに関する問題と回避方法

この章では、Solaris OSに関する情報について記載します。表 7、表 8、表 9はご使用のSolaris OSによって発生しうる問題を示しています。

すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題

リリースされているすべてのバージョンのSolaris OSで発生しうる問題を、表 7に示します。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6440061	ドメインのコンソールに、 <code>ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)</code> というメッセージが表示されることがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。
6519290	<code>/tmp (tmpfs)</code> に巨大なファイルや大量のファイルを作成した場合、または、復旧可能な軽度のメモリ不足が発生した場合、スワップデバイスへのI/Oが大量に発行され、システムがスローダウンすることがあります。	以下を <code>/etc/system</code> のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください。 <code>set maxfastscan=0x2000</code>
6531036	ネットワークインストール後、 <code>network initialization failed</code> のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6532215	<p>ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。</p> <pre> svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95. svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.</pre>	<p>ドメイン起動後にサービスを再起動してください。</p> <p>本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。</p> <pre> # svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6537511	<p>セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。</p>	<p>アプリケーションサーバを再起動してください。</p>
6572827	<p>prtdiag -v コマンドで PCI バスのタイプが間違っ て出力されます。PCI-X リーフデバイスには「PCI」、古い PCI デバイスには「UNKN」と表示されます。</p>	<p>有効な回避方法はありません。</p>
6608404	<p>以下のカードを搭載した場合にホットプラグ操作を行うと、他のネットワークデバイスがフェイルすることがあります。 X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</p>	<p>この問題を回避するために、このカードを搭載しないでください。</p>
6625734	<p>シングルドメイン環境下で、大量のプロセッサが搭載されているシステムでは、一定の作業負荷がかかるとパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>アプリケーションプロセッサをバインドする場合はプロセッサセットを使用するか、プロセッサをグループ化させるために LWP を使用してください。詳細は、Solaris の psrset(1M) コマンドのマニュアルページを参照してください。</p>

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu error</code> が発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> が失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下のように出力されます。</p> <p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</p>	<p>FMA サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当した DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># fmadm repair <i>fnri</i> <i>uuid</i> # fmadm rotate</pre>

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6723202	SPARC Enterprise M3000 サーバのオンボード SAS/LSI コントローラを使用してハードウェア RAID を構築するために、raidctl コマンドを使用することはできません。 raidctl コマンドはディスクやコントローラのステータスを確認したり、システム上にインストールされている PCI ホストバスアダプター (HBA) に対して使用することができます。	有効な回避方法はありません。この問題は解決する予定はありません。
6725885	cfgadm コマンドを使用すると、SPARC Enterprise M3000 サーバでは存在しないシステムボード (SB1 から SB15) が表示されてしまいます。	cfgadm コマンドの出力にある、SB1 から SB15 は無視してください。
6745410	システムを boot しないような kadb のオプションは、ブートプログラムで無視されてしまいます。	kadb を使用しないで、kmdb を使用してください。
6765239	複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスが、オンボードの外部 SAS インターフェースに接続されている場合、正常に動作しません。SAS デバイスのターゲット ID のリストが再起動後に変更されてしまいます。	富士通製 SAS カード (SE0X7SA1F/SE0X7SA1X) を使用してください。また、この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。

Solaris 10 5/09 で解決された問題

Solaris 10 5/09 で解決された問題を表 8 に示します。Solaris 10 5/09 より以前の製品では発生することがあります。

表 8 Solaris 10 5/09 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリに対して DR 操作を行っているときに XSCF をリセットすると、ドメインがパニックする場合があります。	これは、パッチ 139555-08 で修正されました。 [回避方法] DR 操作中に XSCF をリセットしないでください。DR 操作が終了してからリセットを開始してください。

表 8 Solaris 10 5/09 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6623226	Solarisのlockstat(1M)コマンドやdtrace lockstat providerで、システムパニックが発生することがあります。	これは、パッチ140336-01で修正されました。 [回避方法] lockstat(1M)コマンドおよびdtrace lockstat providerを使用しないでください。
6680733	Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC)および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に高負荷がかかっていると、パニックを起こす場合があります。	これは、パッチ139570-01で修正されました。
6689757	Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に対して、XFP光トランシーバーをひとつだけ、または誤った方法でインストールしている場合には、コンソールに、以下のメッセージが出力されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	これは、パッチ139570-01で修正されました。 [回避方法] 両方のXFP光トランシーバーがしっかりハウジング内に収まっていることを確認してください。 インテル社製XFP光トランシーバーとSun社製のXFP光トランシーバーを同じアダプタ内に混在させないでください。 ポートがXFP光トランシーバーを含まない場合、あるいは使用されていないトランシーバーを含む場合は、そのポートに対してifconfig plumbを実行しないでください。

Solaris 10 10/08で解決された問題

Solaris 10 10/08で解決された問題を表 9に示します。Solaris 10 10/08より以前の製品では発生することがあります。

表 9 Solaris 10 10/08 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>Solaris OS 起動中に、コンソールに以下のメッセージが出力される場合があります。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCI- Express subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4- 8000-75 for more information. ...</pre>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>注 - 137137-09 以降を適用する前に、<code>/etc/system</code> から以下の設定を削除してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre> <p>[回避方法]</p> <p><code>/etc/system</code>に以下の設定を追加し、ドメインを再起動してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6720261	<p>ドメインでSolaris 10 5/08が稼働している場合、システムがパニックまたはトラップを起こすことがあります。</p>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>システム設定ファイルである <code>/etc/system</code> に、以下の変数を必ず設定してください。</p> <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> <p>そのあと、ドメインを再起動してください。</p>

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 10 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 10 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド	2-26	「2.2.2」にある「ロックアウト時間に0分を指定してロックアウト機能を無効にする場合、任意のユーザーアカウントで最初のログインに成功すると、ロックアウト機能は無効になります。無効設定後、最初のログインに失敗すると、ロックアウト機能は無効になりません。」は、以下に読み替えてください。 「setloginlockoutコマンドで、-s 0を指定すると、ロックアウト機能を無効にできます。ロックアウト機能を無効に設定した場合、ユーザーは何回でもログインを試みることができるようになります。ロックアウト時間が経過する前にロックアウトされたユーザーアカウントにアクセスする必要がある場合は、システム管理者にロックアウト機能を無効にもらい、ログインが許可された後、ロックアウト時間を設定してロックアウト機能を再度有効にしてください。」
	2-32	LDAPサーバは129文字以上で指定できますが、表2.6には、誤って「最大128文字」と記載されていました。
	3-3	表 3.1にある「ドメインコンソールは強制ログアウトしません。」という文は以下に読み替えてください。 ドメインからログアウトしないで、ドメインコンソールからXSCF シェルコンソールに戻った場合は、自動的にドメインからログアウトされます。ドメインコンソールを放置した場合のセッションタイムアウト時間を設定する場合は、Solaris OSのマニュアルを参照してください。
	9-12	「表9.10 ネットワーク設定」のXSCFネットワーク設定の備考欄に、以下の内容が追加されます。 DSCPリンクアドレスは、XSCF Web 上では設定／表示できません。setdscp(8) およびshowdscp(8) コマンドを使用してアドレスを設定／表示してください。
	9-13	XSCF Webでは、129文字以上でLDAPサーバを指定することはできません。表9.13に注として追加されます。

表 10 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド	9-19	XSCF Webでは、コンソールログ、パニックログ、IPL メッセージログ、監視メッセージログ、および監査ログに対する、ログ検索はできません。表9.24のこれらのログには、誤って「ログ検索できます。」と記載されていました。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアル		setloginlockout(8)コマンドおよびshowloginlockout(8)コマンドが追加されます。 詳細については、setloginlockout(8)コマンドおよびshowloginlockout(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	adduser(8)コマンド	userオペランドにある「大文字、小文字は区別されます。」という記述は、「大文字は使用できません。」に変更されます。また、大文字を使用した例は削除されます。
	setntp(8)コマンド	優先サーバを設定するための、以下のオプションが追加されます。 -m prefer= <i>value</i> 詳細については、setntp(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	setssh(8)コマンド	DSCP を経由した、ドメインからSSH サービスへのアクセスに関する、以下のオプションが追加されます。 -m dscp= <i>mode</i> 詳細については、setssh(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showdomainmode(8)コマンド	MACアドレスを含む詳細な情報を表示するための-vオプションが追加されます。 詳細については、showdomainmode(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showenvironment(8)コマンド	消費電力を表示するためのpowerオペランドが追加されます。 詳細については、showenvironment(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showenvironment(8)コマンド	排気量を表示するためのairオペランドが追加されます。 詳細については、showenvironment(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showntp(8)コマンド	優先サーバの有無を表示させるための-mオプションが追加されます。詳細については、showntp(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showssh(8)コマンド	SSHサービスの表示に関する説明が追加されます。詳細については、showssh(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。

表 10 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニ ュアル	traceroute(8) コマンド	<p>ユーザー権限内の以下の記述は削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DSCP アドレスに対して実行する場合 fieldeng <p>オペランド内の記述に、以下の内容が追加されます。 DSCPアドレスを指定した場合はエラーとなります。</p>

システム内の縮退メモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、マザーボード上のDIMM番号0Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      MBU_A Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

